

Roles of the Wada Test and Functional Magnetic Resonance Imaging in Identifying the Language-dominant Hemisphere among Patients with Gliomas Located near Speech Areas

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032083

主論文の要旨

Roles of the Wada Test and Functional Magnetic Resonance Imaging in Identifying the Language-dominant Hemisphere among Patients with Gliomas Located near Speech Areas (言語野近傍悪性脳腫瘍への Wada テスト、functional MRI による言語優位半球同定の有効性)

東京女子医科大学脳神経外科学教室
(指導：川俣貴一教授)
石川 達也

Neurol Med Chir (Tokyo) 57 28～34 (2017)に掲載

【要 旨】

言語野近傍の悪性神経膠腫に関して、Wada テスト及び fMRI による言語優位半球同定を行い、Wada テストを省略が可能かを検証した。対象は手術を行った言語野近傍の悪性神経膠腫 74 例とした。男性 48 例、年齢は 13～70 歳（平均 42.7 歳）であった。Wada テストは左右各々の内頸動脈にチオペンタールナトリウムを注入し、fMRI は verb generation task(言葉にださないしりとり)を行い、SPM (Statistical parametric Mapping) 99 で解析した。Wada テストは 74 例中 73 例(98.6%)で言語優位半球を同定でき、同定不能 1 例は傾眠であった。fMRI は 74 例中 53 例 (71.6%) で言語優位半球を同定できたが、判定不能が 21 例 (28.4%) あった。Wada test と fMRI で結果が合致しなかった症例が 5 例 (8.6%) あり、そのうち 3 例 (5.2%) は優位半球が異なった。さらに 3 例中 2 例(2.7%) は、言語優位半球側を非優位半球と判定する「対側の偽陽性」例であった。合併症は、Wada test で 4 例 (5.4%) に痙攣発作を認めた。fMRI で言語優位半球を明確に同定できれば、Wada テストは省略できる。しかしながら、fMRI では「対側の偽陽性」の可能性があり、左病変で fMRI で右優位半球と判定された場合などでは Wada テストによる確認が必要である。